

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：62608

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07408

研究課題名(和文)大名華族のアーカイブズ資源研究 「下総佐倉 堀田家文書」を素材に

研究課題名(英文) Research on record management system of ex-feudal lord peers : Focus on Hotta's archives of former Sakura feudal lord

研究代表者

宮間 純一 (MIYAMA, JUNICHI)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：10781867

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、旧下総佐倉藩主堀田家を事例として、大名華族家で作成・取得された文書群の構造分析を行った。本研究によって、堀田家の家政機構の組織と機能の概要が明らかとなり、文書の作成・授受・管理・利用の具体相が解明された。その成果は、論文として発表するとともに、佐倉市と協力してシンポジウムを開催し、市民にも還元した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I analyzed the structure of the archives created and acquired by ex-feudal lord peers, as a case of Hotta's archives of former Sakura feudal lord. As results of this research, the outline of the organizations and functions of Earl of Hotta's household administrative organizations became clear, and the specific phases of documents creation, receipt, management and use were elucidated. In addition to presenting the results as a thesis, I held a symposium in cooperation with Sakura City and returned the results to the citizens.

研究分野：日本史、アーカイブズ学

キーワード：佐倉藩 堀田家 大名華族 アーカイブズ 久留里藩 黒田家 旧藩社会 日本近代史

### 1. 研究開始当初の背景

近年、旧大名華族家に伝来した文書群のうち近代文書の発掘・公開が進んだことを背景に、大名華族の実像と地域の関係の具体像に迫る事例研究が複数表れている。そこでは、大名華族が廃藩後も旧藩領に深く関与し、地域の形成に大きな影響を及ぼしたことが解明されてきた。

旧大名華族家伝来の文書群に伝わる史料が、どのように作成・取得され、選別・編纂され、利活用され、伝来してきたのか、といった諸点を、文書群を生成した組織体の機能とともに明らかにすることが歴史研究を手がける上で不可欠な作業となることはいうまでもない。

しかしながら、そうした取り組みは行われてこなかった。必要な史料を断片的に抽出して研究が進んできたがゆえに、そこから判明する家政や地域における教育・産業・文化等に関する一つ一つの事項があたかも別個のものであるかのように捉えられており、それぞれが相互にどのように関係し合い、活動全体の中にどう位置づくのかが不明瞭であった。

近世大名のアーカイブズ資源研究については盛んに行われてきたが、出所を同じくする文書群でありながら大名華族のアーカイブズは考察対象となつてこなかった。既存のアーカイブズ資源研究は、廃藩までに時代が限られていた。歴史学の研究潮流に対応できるだけのアーカイブズ学研究成果が存在しない状況であった。

### 2. 研究の目的

上記のように、歴史学・アーカイブズ学ともに旧大名華族家伝来の文書群のアーカイブズ資源研究を本格的には行ってこなかった。

そのような状況は、大名華族の活動の全体像を不明瞭にし、歴史研究・地域史研究を行き詰まらせ、研究を不十分かつ不正確にする危険性すらはらんでいる。

ただし、それは逆に言えば、仮に本研究が成果をあげることができれば、より精度の高い充実した研究が推進されうるということでもある。

本研究は、大名華族のアーカイブズ資源研究の嚆矢となる試みであり、日本近代地域史研究並びにアーカイブズ学の発展に寄与することを目的とするものである。

特に、旧佐倉藩主堀田伯爵家に伝来した「下総佐倉 堀田家文書」を事例として、大名華族の史料群の構造を明らかにし、近代地域史研究にいかに関与しうるのかを考えるための一助にしたい。

### 3. 研究の方法

本研究では、「下総佐倉 堀田家文書」のうち近代文書群の構造分析を行う。「下総佐倉 堀田家文書」を主な分析対象とする理由は、

大名華族であった時代の文書が「群」として伝来していること、本研究上欠くことができない「家扶日記」等の基礎資料や記録管理に関する文書が残っていること、研究代表者のこれまでの研究活動において本研究に必要なデータがある程度蓄積されていること、である。

具体的には廃藩以降の文書群構造を分析し、文書群の全体構造を明確にした上で、史料が作成・取得された背景となる活動との有機的関係を明らかにする。

さらに、本研究においては「下総佐倉 堀田家文書」を主たる分析素材としつつも、より長いスパンでは大名華族のアーカイブズ資源研究の構築を志すものである。そのため、一つの文書群だけではなく、可能な範囲で他家との比較を行い、相違点・共通点を検討する。

具体的には、a.「信濃国松代 真田家文書」、b.「上総国久留里 黒田家文書」を調査し、比較・検討を行う。

### 4. 研究成果

#### (1) 堀田正倫・正恒

「下総佐倉 堀田家文書」のうち、華族に叙されてからの文書群の年代幅は、1869年(明治2)6月に堀田正倫が華族に列してから昭和戦中期までの約70年におよぶ。この間の堀田家当主は、正倫・正恒の2代で、特に多くの文書が残されているのは正倫が当主の時期である。

正倫は、1851年(嘉永4)12月8日に堀田正睦の四男として誕生し、1859年(安政6)に佐倉11万石を襲封した。1869年6月18日に太政官から佐倉藩知事に任命される。1871年7月15日には廃藩により藩知事を免ぜられ、1876年12月31日に宮中祇候に任じられた。1883年8月25日には、宮中祇候を依願により免職となり、翌84年7月7日、伯爵に叙されている。

1870年11月には大名華族に対して東京への移住命令が出された。正倫も上京を余儀なくされ、以後約20年間を東京で過ごすことになる。大名華族の地方への帰還が認められたのは、1887年10月15日のことで「地方ニ就キ、産業ニ従事或ハ家計維持スルノ目的ヲ以テ」各都道府県への移住が認められた。これにより、正倫は1888年10月初頭には佐倉への移住を決断し、邸宅の建築を指示した。邸宅完成後、正倫は1890年11月8日に千葉県印旛郡佐倉町鐺木町320番地へ移っている。

正倫は、社会福祉、殖産、教育、衛生といった諸分野には熱心で、多大な私財を旧藩領地域に投入した。正倫が、生涯にわたってさまざまな事業に投じた金額の合計は、10万円弱にも上るといふ。その主な投資先は、佐倉地域であった。1897年3月には、堀田邸の敷地内に農業などの研究機関である堀田家農事試験場を設立し、正倫死亡後の1924年(大正13)まで経営を維持した。

1904年に旧藩の親睦団体である佐倉郷友会が組織された。郷友会は、会長に堀田家の当主が就き、「旧藩主ノ恩義ヲ永ク子孫ニ伝へ、兼テ旧藩士及其子孫並ニ家族間ノ親睦ヲ醇ウシ、各自ノ品位ヲ高ムルヲ以テ目的」とした。旧藩士たちの間では対立も少なくなく、決して一枚岩ではなかったものの、正倫を核としてその社会的関係は持続されていた。

1911年、正倫の死を受けて当主の座に就いた正恒は、蓮池鍋島家から婿養子として堀田家に来た人物で、子爵鍋島直柔の二男にあたる。正恒は、正倫の死後、家督を相続し、伯爵を襲爵した。1915年に東京帝国大学法科大学を卒業後、1918年に貴族院議員に選出され、戦後の1946年（昭和21）まで在任している。また、海軍省参事官、海軍政務次官などを務めた。

正恒は、正倫とは好対照に中央で公職を歴任しており、壮年期は佐倉に滞在する時間が短かった。

佐倉帰還以後、官職から遠ざかり、地域で圧倒的な存在感を放ち続けた正倫の代とは、堀田家と地域の関係が大きく変容している。また、旧藩時代を知る旧藩士たちも大正期に入ると自然と高齢化・死没し、次第にかつてのような旧藩の結合は薄れていった（ただし、消えない）。

## (2) 「下総佐倉 堀田家文書」

「下総佐倉 堀田家文書」は、「堀田家文書」、「母里松平家文書」、「佐倉藩士家文書」の三つに大きく分けられる。これらは、出所（元來文書が作成・取得された組織・家・個人）による区分で、「堀田家文書」は、堀田家に伝来した文書群である。

「母里松平家文書」は、出雲国松江藩の支藩である母里藩の藩主松平家を出所とする文書群で約270点が確認される。もともと、堀田邸の蔵にあった革製トランク一つにまとめて収納されていた文書群だという。「母里松平家文書」の一部が「堀田家文書」に入り込んだ原因について、正威が正倫の養子として堀田家に迎えられたことにより堀田家に持ち込まれたと推定される。ただし、正威が堀田家を離籍した後の文書も含まれており、現段階では推測の域を出ないため今後他機関所蔵の松平家文書との比較・照合を含めて検討する必要がある。

「佐倉藩士家文書」は、佐倉藩士の家に蓄積された文書群が、堀田家文書に混入したものである。その要因の一つは、前述の通り明治10年代以降の藩史編纂事業による史料収集だと考えられるが、これらについてもより丁寧に分析し、混入した文書を確実に特定する必要がある。現時点で一つだけ指摘できるのは、旧藩士から堀田家に寄贈された文書は、近世文書ないしはその写本であり、純粋な近代文書はおそらく含まれないという点である。これは、旧藩時代を叙述の対象とす

る藩史編纂事業の性格に起因すると考えられる。

「堀田家文書」は、a「近世大名」、b「大名華族」（「堀田伯爵家文書」）の二つに大きく分かれる。

a「近世大名」は、従来、整理・研究の主な対象とされてきた文書群である。これらについては、先人たちによって数度目録が作成され、主題別分類がなされている。しかしながら、アーカイブズ資源研究は皆無であり、現在の研究水準に適う目録を作成するためには、より本格的な研究に取り組む必要がある。特に、現在の分類では、同時代に作成・取得されたいわゆる「一次史料」と明治以後編纂された文書・文献がほぼ一緒に扱われている。これは、文書を歴史研究の素材とみなして分類した場合、その方が一見便利だからにほかならないが、その結果今日までの佐倉藩史研究にて編纂物である「佐倉藩記」などが史料批判なしに多用される結果を招いている、とも考えられる。それらは、アーカイブズ学的な観点からいえば、明治以後の堀田家の活動の中に位置づけられるものであり、本来aではなくb「大名華族」に含まれる文書群ということになる。

b「大名華族」は、1869年に正倫が華族に列して以降、作成・収受された文書群である。この文書群には堀田家当主（正倫・正恒）の個人活動の過程で蓄積されたものと、家政を担う家務所において作成・収受されたものの2種類が存在する。前者と後者は明確に分かちがたい部分もあるが、前者には組織の構成上家務所の営為とは別に考えた方がよいものが該当する。

例えば、正倫と正恒は、佐倉郷友会の会長職を務めており、同会の運営には堀田家の家職も深く関与していた。幹事は、佐倉部と東京部にそれぞれ8名がおかれ、その内各2名は会長が指名した家職の者が務めるとされている。そのため、堀田家には佐倉郷友会の会長・幹事職に係る文書群が集積されたが、佐倉郷友会はあくまでも家務の規定外の組織である。このため、文書群の構造上、家務所の組織アーカイブズとは分け、当主個人の活動の中で蓄積された文書群と考えるのが妥当といえる。そのほかにも、類似のものとして正倫・正恒が外部組織の公職・名誉職などを務めていたことによって作成・収受・保管されてきた文書群も少なくない量存在するが、それらも同様である。

後者は、家令・家扶などから構成される堀田家家務所の活動によって蓄積された文書群で、堀田伯爵家の活動に関する基礎的な史料群となる。本研究では、主に後者を対象とした分析に力を入れた。その成果は、宮間純一・清水邦俊「『下総佐倉堀田家文書』の来歴と堀田家家務所の組織機能 大名華族のアーカイブズ資源研究をめざして」(『佐倉市史研究』31、2018年)にくわしくまとめたので参照されたい。また、他藩との比較も

適宜行いその成果を研究会等で発表した。  
さらに、佐倉市と協力して、佐倉・城下町  
400 年事業クローゼンイベントシンポジ  
ウム「城・城下町の歴史遺産 守り、活かし、  
伝える」(2018 年 3 月 17 日、佐倉市美術館)  
を開催し、81 名の参加者を得て地域の研究者  
および市民との意見交換の機会を得た。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

##### [雑誌論文](計 2 件)

宮間純一・清水邦俊「『下総佐倉堀田家文  
書』の来歴と堀田家家務所の組織機能  
大名華族のアーカイブズ資源研究をめざ  
して」、『佐倉市史研究』31、32-55 頁、  
2018 年

宮間純一「『殿様』の死と佐倉 堀田正  
睦・堀田正倫を中心に」、『佐倉市史研  
究』30、1-21 頁、2017 年

##### [学会発表](計 4 件)

宮間純一「地域を支える記録 「佐倉」  
にとっての歴史遺産」佐倉・城下町 400  
年事業クローゼンイベントシンポジウ  
ム「城・城下町の歴史遺産 守り、活か  
し、伝える」2018 年 3 月 17 日、佐倉市  
美術館

宮間純一「明治維新の記憶と記録 秋田  
藩士の戊辰内乱」中央大学人文科学研  
究所公開研究会、2017 年 3 月 24 日、中  
央大学多摩キャンパス

宮間純一「森勝蔵の弘文天皇陵治定運動」  
君津市立久留里城址資料館企画展関連講  
座、2016 年 11 月 23 日、君津市立久留里  
城址資料館

宮間純一「『殿様』の死と佐倉 堀田正睦、  
堀田正倫を中心に」佐倉市歴史講演会  
2016 年 11 月 12 日、佐倉市立中央公民館

##### [図書](計 0 件)

##### [産業財産権]

##### 出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

##### 取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

宮間 純一(Miyama, Junichi)  
国文学研究資料館・研究部・准教授  
研究者番号：10781867

##### (2) 研究分担者

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

( )